

「医療経済学会 第16回 研究大会」 開催報告

2021年9月4日(土)に伏見 清秀 氏(東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 教授)を大会長として「医療経済学会 第16回 研究大会」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の流行と政府、東京都の対応を考慮して、昨年へ引き続きオンライン形式での開催となりましたが、148人の皆様にご参加をいただき、盛会裏に終了致しました。

一般演題は2会場にて15演題の発表がなされ、それぞれの演題で活発な議論が行われました。「第16回 若手研究者育成のためのセミナー」も同時に開催され、若手研究者からの発表とコメンテーターから実践的なアドバイスを提供する機会も設けられました。



基調講演・シンポジウムでは、「公衆衛生対策において経済学者が果たす役割」という題目で、伏見大会長の司会の下、4名のパネリストの皆様(岩本 康志 氏(東京大学 大学院経済学研究科 教授)、大竹 文雄 氏(大阪大学 感染症総合教育研究拠点 教授)、橋本 英樹 氏(東京大学 大学院医学系研究科 教授)、井深 陽子 氏(慶應義塾大学 経済学部 教授)にそれぞれの視点から新型コロナウイルス感染症対策に関する現状と課題について講演いただき、その後活発なディスカッションが行われました。



また後日、本研究大会 若手最優秀発表賞の選考が実施され、長野 広之 氏(京都大学 大学院医学系研究科)の「Hospitalization for ischemic stroke was affected more in independent cases than in dependent cases during the COVID-19 pandemic: an interrupted time series analysis.」が受賞しました。

最後になりますが、昨年へ引き続きオンライン開催という開催形式にも関わらず、多くのご参加並びに活発にご討議頂き、盛会に導いて下さいました皆様方に、深く御礼申し上げます。次の第17回 研究大会は、岸田 研作 氏(岡山大学 大学院社会文化科学研究科(経済系) 教授)を大会長として、2022年9月3日(土)に岡山大学 津島キャンパスにおいて開催されます。再び多くの皆様のご参集を賜れますよう、願っております。

(医療経済学会 事務局)